

グループホームの現状と課題 (2)

子ども家庭福祉研究部	庄司順一・澁谷昌史・才村 純
研究企画・情報部	小山 修
母子保健研究部	安藤朗子
嘱託研究員	伊藤嘉余子 (日本社会事業大学大学院)
	鈴木 力 (聖徳大学短期大学部)
	宮本和武 (和泉福祉専門学校)
	横堀昌子 (青山学院女子短期大学)
	和泉広恵 (日本学術振興会)
	側垣一也 (三光塾)
	佐川良江 (全国社会福祉協議会)
	小川純一 (東京都福祉局子ども福祉部育成課)
	武藤素明 (二葉学園)
	浜田尚樹 (神奈川県福祉部児童家庭課)
	松橋秀之 (横浜市中央児童相談所)
	相馬 豊 (相馬ホーム)
	豊田伸一 (川崎市健康福祉局児童福祉課)
	名古屋洋一 (名古屋ホーム)

要 約

要保護児童のためのグループホーム (GH) には、里親型GHと施設分園型GHがあるが、今年度はその運営実績に関する実態調査と、GHに入所している子どもの実態調査を行った。里親型GH17 ホームのうち10 ホームから46名の子どもについて、分園型GHでは96 ホームのうち69 ホームから356名の子どもについての回答が得られた。ただし、分園型GHでは、自活訓練事業実施指定施設 (95名) は除き、261名 (地域小規模児童養護施設111名と「その他のGH」150名) について検討を行った。

見出し語：グループホーム、運営、入所児童、入所条件

A Study on Group Homes for Children (2)

Shoji,J., Oyama,O., Shibuya,M., Ito,K., Saimura,J., Ando,A., Suzuki,T., Miyamoto,K., Yokobori,M., Izumi,H., Sobagaki, K., Sagawa,Y., Ogawa,J., Mutou,S., Hamada,N., Matsuhashi,H., Souma,Y., Toyoda,S., and Nagoya,Y.

The purpose of this study was to examine conditions of administration of group homes for children and of children in care. The subjects of questionnaire survey were 17 homes of foster care type and 96 homes as a branch of residential institutions. The data was obtained from 10 foster care type homes and 69 homes of as a branch. The data were also obtained on children in care of 46 and 356, respectively. Of 356 children, 95 were excluded because they were lived in homes for adolescent.

It seems to be necessary to clarify the characteristics among residential institutions, group homes, and foster care.

Key Word: group home, administration, children in care, requirements for placement

I 研究目的

地域小規模児童養護施設の創設(平成12年)の制度化、里親制度改革(平成14年)、社会保障審議会児童部会「社会的養護のあり方に関する専門委員会」(平成15年)など国レベルの議論をはじめ、全国乳児福祉協議会の「21世紀における乳児院のあり方最終報告書」および全国児童養護施設協議会の「子どもを未来とするために」など、社会的養護のあり方に関して活発な議論が展開されている。

それらの動向において、さらに検討すべき課題は児童のグループホーム(以下、GHと略す場合がある)である。筆者らは、昨年度、自治体におけるGH制度の施行状況とGHの実態に関する調査を行った。まず、グループホーム(GH)を「児童相談所の措置として、比較的少数の児童を一定の居住環境のもとで養育するファシリティ」と定義した。これには、里親型グループホームと、施設分園型グループホーム(地域小規模児童養護施設、児童養護施設分園型自活訓練事業指定施設を含む)とに大別される。第1次調査では、全国の59自治体(都道府県および政令指定都市)に調査票を送付し、54自治体から回答を得た(回収率91.5%)。里親型GHを制度として実施しているところは5自治体であったが、実際に里親型GHがある自治体は、東京都、横浜市、川崎市の3自治体で、計17ホームが運営されていた。施設分園型GHを制度として実施しているのは24自治体で、計96ホームが運営されていた。これら里親型GHおよび施設分園型GHに対してその運営実態と課題について調査を行った。

昨年度の研究をふまえ、今年度は、グループホームの運営実績と、グループホームに入所している児童の状況について調査を行い、グループホームのあり方と課題を明らかにした。具体的には、以下の調査を行った。

- 1 里親型グループホーム
 - 1) 里親型グループホーム実態調査
 - 2) 里親型グループホームで生活している子どもの実態調査(個票調査)
 - 3) 里親型グループホームを退所した子どもの実態調査(個票調査)
- 2 分園型グループホーム
 - 1) 分園型グループホーム実態調査
 - 2) 分園型グループホームで生活している子どもの実態調査(個票調査)

- 3) 分園型グループホームを退所した子どもの実態調査(個票調査)

II 研究方法

それぞれのグループホームに調査票を郵送し、回答を依頼した。調査は平成15年11月に実施した。

III 研究結果

1 グループホーム実態調査

1) 里親型グループホーム実態調査

17ホームのうち、10ホームから回答を得た(回収率58.8%)。回答数が少ないので、概要を記述するにとどめる。ホームの開設は、1984年から2000年までとなっていたが、90年代後半の開設が比較的多かった。ホームの定員は6名であるが、平成15年11月1日現在の現員児童数は2名から7名までとなっており、4名あるいは5名が多かった。定員については「多すぎる」という回答が多くみられ、4名あるいは5名が適切であると考えられていた。入所児童の要件については、性別・年齢にとくに制限はないが、実子や他の入所児童とのバランスを考慮する場合はあるようである。

入所児童を受け入れることは、実子がいる場合、その子どもに何らかの影響が生じ得るのであり、里親は必要な対応をしている(表1-1~1-3)。

入所児童の安定のために必要な運営上の要件としては、アルバイトを雇えるような人件費の保障など、財政的支援の充実、地域との交流など、幅広い条件整備が求められている(表2-1~2-2)。

グループホーム運営上の課題(自由記述)は表3に示した。

2) 分園型グループホーム実態調査

調査票を送付した96ホームのうち、計69ホームから回答があった(回収率71.9%)。その内訳は、地域小規模児童養護施設(以下、地域小規模GHと略す)19ホーム、自活訓練事業実施指定施設21ホーム、その他のグループホーム(以下、「その他のGH」と略す)29ホームであった。

分園型グループホームには上記のように3つのタイプがあるが、自活訓練事業実施指定施設は対象となる児童の年齢、入所期間が他の2つのタイプとは異なるので、以下、「地域小規模GH」と「その他のGH」を中心にみていく。

ホームの定員は、地域小規模GHでは6人であっ

たが、「その他のGH」では6人が62.1%を占めているが、5人以下(27.6%)、7人以上(10.3%)のところもあった(表4)。

ホームの現員は、地域小規模GHでは6人(73.7%)と5人以下(21.1%)でほとんどを占め、「その他のGH」では6人(51.7%)と5人以下(41.4%)がほぼ半数ずつとなっていた(表5)。

ホームの定員については、「ちょうどよい」(地域小規模GH57.9%; その他のGH41.4%)と「多すぎる」(地域小規模GH36.8%; その他のGH58.6%)となっていた。適切と思う入所定員数は、地域小規模GHでは4~6人、その他のGHでは3~6人とするところが多かった。

平成14年度に退所した児童数は、いずれのタイプのGHでも約半数は0人であり(地域小規模GH47.4%; その他のGH55.2%)、次いで1人(42.1%; 20.7%)、2人(5.3%; 13.8%)で、それ以上というのはまれであった。

ホームの職員に関しては、1ホーム当たりの職員数は2~4人であった(表6)。職員の配置に留意している点としては、職員本人の希望(57.9%; 37.9%)、性別のバランス(47.4%; 51.7%)、職員間の経験年数に差がある(21.1%; 20.7%)などが主なポイントであった。

職員の年齢は、20代前半から60歳以上まで幅があるが、20代および30代で約2/3を占めていた。性別は、ほぼ1対2の割合で女性が多い。夫婦制であるところは地域小規模GHでは6.3%、「その他のGH」では17.8%であった。住み込み勤務制であるのは、地域小規模GHでは26.6%、「その他のGH」では32.9%であった。

ホーム入所児童に関しては、性別は「とくに制限なし」(47.4%; 69.0%)、「必ず男女混合」(42.1%; 20.7%)というところが多く、男子だけ、あるいは女子だけとしているホームは少なかった。児童の年齢も「特に制限なし」(89.5%; 58.6%)というところが多かった。

ホーム入所児童選定の要件について、「その他」を含む23項目について「頻繁に要件となる」から「まったく要件にならない」までの5段階で評価してもらった。「頻繁に要件となる」と「しばしば要件になる」の合計の割合の高い順に、「家庭復帰が相当困難、または不可能であること」(100.0%; 65.6%)、「乳幼児期から家庭的生活の経験が乏しい」(94.7%; 86.2%)、「GH内での年齢のバランス」(89.5%; 86.2%)、「GH内での性別のバランス」(84.2%; 79.3%)、「児童本人の希望があること」

(73.7%; 44.8%)、「すでに社会的養護の期間が長いこと」(57.9%; 58.6%)、「いじめ、暴力など攻撃性がみられないこと」(57.9%; 34.5%)、「きょうだい関係の改善・構築が必要である」(52.6%; 31.0%)、「保護者の了解や希望があること」(47.4%; 17.2%)、「保護者による強引な引き取り要求がないこと」(47.4%; 17.2%)、「ホームにたまたま空きがある」(26.4%; 37.9%)、「年齢が低いこと」(21.1%; 37.9%)、「家庭復帰の可能性が高いこと」(31.6%; 41.4%)、「無断外出がないこと」(31.6%; 34.5%)、「リービング・ケアの時期にあること」(31.6%; 24.1%)、「グループホーム職員との相性がよいこと」(31.6%; 10.3%)などとなった。あまり要件にならないのは、「被虐待経験の有無」「いじめられる、孤立など対人関係に係る問題がないこと」「本体施設職員と相性がよくないこと」「知的能力が著しく低くないこと」「慢性疾患がないこと」などであった(表7)。

グループホーム入所児童の安定のために必要な運営上の要件については、「その他」を含む7選択肢から3つ選択してもらったが、「専従職員同士の良好な関係」(84.3%; 75.8%)、「研修やスーパービジョンの充実による職員の専門的力量的向上」(94.7%; 55.2%)、「代替要員の確保等による職員のリフレッシュ」(52.6%; 20.7%)、「交替制勤務の廃止、断続勤務・夫婦制への転換」(26.4%; 37.9%)などの順となっていた。

児童相談所との関係については、いずれのタイプのグループホームも、事前に児童相談所と協議をして児童をGHへ移動する場合(47.4%; 44.8%)と、施設の判断で児童をGHに移動したのち児童相談所に報告する場合(42.1%; 41.4%)とが相半ばしていた。

2 グループホームで生活している子どもの実態調査

1) GH入所児童の概要

①里親型GH

10ホームから46名の児童についての回答があった。児童の性別は男子30名、女子15名、不明1名であった。これらの児童は調査時点(平成15年11月1日)でグループホームで生活しているものである。GHに入所した時期は、1990年代前半から2003年までにおよんでいた。

調査時点での児童の年齢は1-3歳から16-18歳まで幅が広いが、小学生および中高生がほとんどであった(表8)。

GHに入所したときの年齢は2歳以下から15-17

歳まで幅が広いが、3-5歳および6-8歳で約6割を占めていた(表9)。

GHへの入所期間も1年未満から10年以上までとなっていたが、2年および1年が比較的多くなっていた(表10)。

調査時点での就学状況は、小学生、中学生、高校生が主となっていた(表11)。学校の種類に関しては、非該当(就学前および大学生等)を除く41名のうち、3名が障害児学級あるいは養護学校に在籍していた。

②分園型GH

地域小規模GH111名、「その他のGH」150名、自活訓練事業実施指定施設95名、計356名について回答が得られた。以下、地域小規模GHと「その他のGH」を中心にみていく。

児童の性別はほぼ男女同じ割合であった。

調査時点(平成15年11月1日)での児童の年齢は1-3歳から19歳以上までと広く分布していた(表8)。GHに入所したときの年齢もほぼ同様であった(表9)。

GHへの入所期間は1年未満から8年以上となっていたが、1年未満、1年および2年が比較的多くなっていた(表10)。

2) GH入所児童の入所前の状況

①里親型GH

児童がGHに入所する前に生活していた場所は「家庭」が約半数を占め、次いで「児童養護施設」「乳児院」の順であった(表12)。「その他」は母子生活支援施設、一時保護所であった。

児童のGH入所前の施設入所・里親委託期間は3-6年をピークに幅広く分布していた(表13)。

GH入所前の一時保護経験については「ある」65.2%、「ない」32.6%、「非該当」2.2%と、約2/3に一時保護の経験があった。一時保護の回数は2-5回というものが6名(13.0%)いた。

施設入所歴については「ある」47.8%、「ない」52.2%で、約半数に施設に入所した経験があった。そのほとんどは1回の経験であったが、乳児院に2回入所した経験をもつものもいた。

また、46名中5名が別の里親家庭に委託された経験をもっていた。

②分園型GH

児童がGHに入所する前に生活していた場所は、地域小規模GHの場合、本体施設からが多くを占め(78.4%)、次いで家庭から(9.9%)となっていた。これに対して、「その他のGH」の場合、本体施設から(42.0%)、家庭から(38.0%)、乳児院から(11.3%)

となっていた(表12)。

児童のGH入所前の児童福祉施設(本体施設、GH)、里親委託期間は1年未満から12年以上まで広く分布していた(表13)。

GH入所前の一時保護経験については約2/3があった(66.7%; 66.7%)。一時保護の回数はほとんどが1回または2回であった。

施設入所歴についてはほとんどが「ある」(96.4%; 84.7%)であり、本体施設からの移行が多いことを示している。

里親家庭に委託された経験をもっていたのは地域小規模GHの7名で、うち1名は2回の委託経験を有していた。

3) GH入所時の対応

①里親型GH

入所にあたってのアドミッションケアの実施状況は、児童とGHの里親との面接、児童のホーム見学は多くの例で行われていた(表14)。

②分園型GH

入所にあたってのアドミッションケアの実施状況は、児童とGHの里親との面接、児童のホーム見学は多くの例で行われていた(表14)。

4) 入所児童の被虐待体験

①里親型GH

約半数の児童が児童票に被虐待体験があると記載されていた(表15-1)。GH入所後に里親が判断したところでは、その割合はさらに高くなっている(表15-2)。

②分園型GH

約半数の児童が児童票に被虐待体験があると記載されていた(表15-1)。GH入所後に職員が判断したところでは、その割合はさらに高くなっている(表15-2)。

5) 入所児童の障害の有無と学力

①里親型GH

障害が「ある」とみられるのは約1/4で、そのうち、知的障害、発達障害・自閉症・ADHD等(疑いを含む)が多くを占めている(表16)。ただし、診断を受けていない場合も少なくない。

学力に関しては、約2割の児童は1年以上の遅れがあるようであると回答していた(表17)。ただし、全体の約半数は「現在の方が学力が高い」と回答していた(表18)。

②分園型GH

障害が「ある」とみられるのは約1/4で、そのうち、知的障害、発達障害・自閉症・ADHD等(疑いを含む)が多くを占めている(表16)。

学力に関しては、地域小規模GHでは32.4%が、「その他のGH」では25.3%が、1年以上の遅れがあるようである(表17)。約4割の児童はGHにきてから学力が向上したようであるが、地域小規模GHでは約1割が、学力が低下している(表18)。

6) 入所理由と家族の状況

①里親型GH

社会的養護を必要とするようになったもとの理由(主たる理由)は「父母の不明」17.4%、「父母の入院・疾病」17.4%、「父母の精神疾患・人格障害等」10.9%、「破産等の経済的理由」10.9%ほか、多岐にわたっている(表19)。「その他」は、「きょうだい関係を重視」「後見人による放任」「同居している継母になる予定の人による虐待」であった。

児童の保護者は「実母のみ」41.3%、「実父のみ」23.9%が高くなっていった(表20)。

児童の父母の現在の状態には、障害や経済的問題など、さまざまな問題がみられる(表21)。「その他」は、「母親再婚」、「さまざまな身体疾患による病気療養中」であった。

児童のきょうだいについては、その人数も含め、不明の場合も少なくないが、その生活の場として回答があったのは、きょうだいは家族と暮らしている場合と、社会的養護の場にいる場合とがあることを示している(表22~23)。

②分園型GH

社会的養護を必要とするようになったもとの理由(主たる理由)は「父母の虐待・酷使」(13.5%; 15.3%)、「父母の精神疾患・人格障害等」(10.8%; 10.7%)、「父母の就労」(8.1%; 13.3%)、「父母の放任・怠惰」(9.0%; 8.0%)、「父母の行方不明」(8.1%; 6.0%)、「父母の離婚」(7.2%; 6.0%)、「父母の死亡」(5.4%; 4.7%)、「父母の入院・疾病」(5.4%; 4.7%)、「養育拒否」(4.5%; 6.0%)など、多岐にわたっている(表19)。「その他」は、「祖父母の入院」(3例)、「母子家庭で母がアルコール依存」、「母の施設入所」、「一家浮浪」、「養父らからの虐待」、「母が失踪、父は養育困難」(いずれも2例)などであった。

児童の保護者は「実母のみ」(32.4%; 33.3%)、「実父のみ」(19.8%; 25.3%)が高くなっていった(表20)。

児童の父母の現在の状態には、障害や経済的問題など、さまざまな問題がみられる(表21)。「その他」は、自活訓練事業実施指定施設も含むが、「服役中」(9例)、「死亡」(9例)、「経済的に困窮が著しい」(7例)、「病気療養中」(5例)、「就労のため養育困難」(4例)、「仕事が続かない」(4例)などであった。

児童のきょうだいについては、きょうだいが比較的多いようであり(4人以上が10.4%; 5.4%)(表22)、きょうだいの多くも社会的養護のもとにいる。すなわち、本児と同じGH(35.1%; 21.3%)、あるいは別の福祉施設(13.5%; 17.3%)に約半数が暮らしている(表23)。

7) 児童のGHへの委託(措置変更)理由

①里親型GH

これは主たる理由を3つ選択してもらったが、「家庭復帰が相当困難・不可能」54.3%、「乳幼児期から家庭的な生活経験が乏しい」34.8%、「たまたまホームに空きがあった」21.7%、「年齢が低い」17.4%、「ホーム内での年齢のバランス」13.0%、「被虐待経験がある」10.9%、「ホーム内での性別のバランス」10.9%、「家庭復帰の可能性が高い」10.9%、「保護者の了解・希望がある」10.9%など、さまざまな理由が選択された(表19)。「その他」は、「進学・通学に便利」「(ホームにくる前の)里親家庭の問題」「児童とホームとのかかわりがあった」「実家に近い」などであった(表24)。

②分園型

これは主たる理由を3つ選択してもらったが、「家庭復帰が相当困難・不可能」(74.7%; 34.6%)、「乳幼児期から家庭的な生活経験が乏しい」(41.4%; 33.9%)、「本人の了解・希望がある」(22.5%; 16.7%)、「ホーム内での年齢のバランス」(24.3%; 20.0%)、「社会的養護の期間が長い」(17.1%; 11.4%)、「ホーム内での性別のバランス」(9.9%; 13.3%)、「たまたまホームに空きがあった」(8.1%; 15.3%)、「家庭復帰の可能性が高い」(10.8%; 7.3%)などであった(表24)。

8) 児童の治療・医療

①里親型GH

入所してから一般病院へ長期(3カ月以上)の通院経験があるのは約1/4であった(表25)。精神科受診または心理療法を受けた経験があるのは約2割であった(表26)。

②分園型GH

グループホームへきてから長期(3カ月以上)にわたる一般病院への通院経験が「過去にあった」あるいは「現在通院中」の児童は、地域小規模GHでは28.8%、「その他のGH」では17.3%であった(表25)。

グループホームへきてから精神科受診あるいは心理療法を受けた経験があるのは、地域小規模GHでは30.6%、「その他のGH」では36.0%であった(表26)。

9) 児童福祉法 28 条適用の有無

①里親型GH

児童福祉法 28 条適用した例はグループホームでは少なかった(表 27)。

②分園型GH

児童福祉法 28 条を適用して入所した児童は、地域小規模GHでは 1.8%、「その他のGH」では 6.7%であった(表 27)。

10) 家族との関係

①里親型GH

児童と家族の面会・通信の頻度は、「一度も面会がない」が約 1/4 を占め、次いで「月 1 回」「年に数回」の順となっていた(表 28)。自宅への帰省頻度は、当然のことながら、面会・通信の頻度よりも低くなっていた(表 29)。

児童の保護者による強引な引き取り要求に関しては、「ある」は 1 名(2.2%)だけであった。それは、「ホーム、児童相談所に電話で要求する」というものであった。

児童と保護者との関係については、安定している(36.9%)、不安定である(19.6%)、関わりがない(15.2%)、非該当(保護者行方不明等)(26.1%)に分かれた(表 30)。

児童の保護者とホームとの関係は、約束をしっかり守れる(30.4%)、あまり守れない(19.6%)、関わりがない(21.7%)、非該当(26.1%)に分かれた(表 31)。

児童の保護者への期待に関しては、保護者に会いたいという訴えが約 4 割にあり、他方、会いたくないとの訴えがあることは少なかった。「保護者に関する話題が児童から出ることがない」というものが約 30%であった(表 32)。

②分園型GH

児童と家族の面会・通信の頻度に関しては、「一度も面会がない」が地域小規模GHでは 26.1%、「その他のGH」では 17.3%であった。どちらのタイプのGHにおいても、「年に数回」(29.7%; 27.3%)がもっとも多かった(表 28)。自宅への帰省頻度もほぼ同様で、「一度もなし」がもっとも多く(36.0%; 28.0%)、次いで「年に数回」(24.3%; 27.3%)となっていた(表 29)。

児童の保護者による強引な引き取り要求に関しては、「ある」は地域小規模GHで 1 名(0.9%)、「その他のGH」で 6 名(4.0%)にみられた。それは、「児童相談所にきて引き取りを要求する」(地域小規模GHの 1 例)と、「ホームまできて引き取りをとる」「帰省時にそのまま引き取りをとる」(それぞれ 2 例)というものであった。

児童と保護者との関係については、「安定している」(26.1%; 39.3%)、「不安定である」(26.1%; 30.0%)、「関わりがない」(20.7%; 17.3%)、非該当(保護者行方不明等)・無回答(27.0%; 13.4%)であった(表 30)。

児童の保護者とホームとの関係は、「約束をしっかり守れる」(29.7%; 39.3%)、「あまり守れない」(21.6%; 27.4%)、「関わりがない」(18.9%; 15.3%)、非該当・無回答(29.7%; 18.0%)であった(表 31)。

児童の保護者への期待に関しては、保護者に会いたいという訴えが 4 割以上にあり(57.7%; 57.4%)、会いたくないとの訴えがあることは少なかった(6.3%; 4.6%)。「保護者に関する話題が児童から出ることがない」というものが 2 割弱にみられた(17.1%; 18.0%) (表 32)。

11) 児童の精神的・行動上の問題

①里親型GH

GHに入所した児童はさまざまな精神的問題あるいは行動上の問題を表す(表 33)。入所してからの時期は問わず、頻度の多い順にみると、「夜尿」(21.7%)、「退行」(19.6%)、「過度のなれなれしさ」(17.4%)、「過食」(17.4%)、「多動」(15.2%)、「緘黙」(13.0%)、「他者への暴力」(13.0%)、「怒りっぽさ」(10.9%)、「違法・犯罪行為」(10.9%)、「チック」(10.9%)、「性への強い関心」(10.9%)、「著しい無気力」(8.7%)、「無断外出・外泊」(8.7%)、「浪費」(6.5%)、「リストカット」(4.3%)、「不潔恐怖等強迫行為」(2.2%)、「その他」(4.3%)であった。「その他」には不登校傾向が含まれている。

退行がみられたのは 28.3%であった(表 34)。退行がみられた時期は、入所当初からの場合と入所後 2、3 カ月してからの場合とがあった。退行の持続期間は 2 カ月間から 4 年間とかなり幅があった(表 35)。

退行行動の現れ方は、「添い寝をしてほしがる」(23.9%)、「指しゃぶり・爪かみ」(19.6%)、「ひざにのる」(19.6%)、「歩けるのにおんぶ、だっこをせがむ」(19.6%)、「赤ちゃん言葉の使用」(13.0%)、「幼児語の使用」(10.9%)、「女性の乳房を吸う、触る」(10.9%)、「遺尿・遺糞がみられる」(8.7%)、「おむつをあててほしがる」(4.3%)、「歩かず這い這いする」(4.3%)というのがみられた(表 36)。「哺乳瓶から飲みたがる」という行動はみられなかった。

被虐待経験の再現がみられたのは 6.5%であった。その内容は、女性の養育者に対して、あたかも実母を想起したかのように、パニック状態で攻撃的になった、他児に対して暴言・暴力行為が多くみられた、というものであった。

対象となった 46 名の児童のうち、児童養護施設

からグループホームに措置変更となったものが11名いた。この11名において、児童養護施設ではみられなかったが、グループホームへきて出現した変化については、「地域の子どもの望ましい交流」(54.5%)、「お手伝い等の助け合い行動の定着」(36.4%)、「自分の親・家族への好意的感情」(36.4%)、「生活における自分なりの創意工夫」(27.3%)、「金銭感覚が身についた」(27.3%)、「生活リズムの安定」(27.3%)などが指摘された。「児童養護施設に戻りたいという主張」はみられなかった(表37)。

②分園型GH

里親型GHと同様、GHに入所した児童はさまざまな精神的問題あるいは行動上の問題を表す(表33)。入所してからの時期は問わず、地域小規模型GHと「その他のGH」の合計の頻度の多い順にみると、「怒りっぽさ」(27.0%; 26.7%)、「夜尿」(28.8%; 22.0%)、「過度のなれなれしさ」(16.2%; 24.0%)、「著しい無気力・無表情」(16.7%; 10.7%)、「他者への暴力」(13.5%; 12.7%)、「他児にいじめられる」(10.8%; 15.3%)、「過食」(12.6%; 10.7%)、「退行」(15.3%; 5.3%)、「緘黙」(10.7%; 10.7%)、「性への強い関心」(12.6%; 8.7%)、「多動」(10.7%; 9.3%)、「無断外出・外泊」(5.4%; 8.0%)、「違法行為・犯罪行為」(7.2%; 6.0%)、「睡眠障害」(5.4%; 6.7%)、「不登校」(6.3%; 4.0%)、「浪費」(1.8%; 6.7%)、「チック」(0.9%; 7.3%)、「不潔恐怖等強迫行為」(1.8%; 4.7%)、「拒食」(1.8%; 1.3%)、「ひきつけ・てんかん」(2.7%; 0.0%)、「リストカット」(0.0%; 0.7%)、「その他」(5.4%; 6.0%)であった。

退行がみられたのは地域小規模型GHでは22.5%、「その他のGH」では14.7%であった(表34)。退行の持続期間はかなり幅があった(表35)。

退行行動の現れ方は、「添い寝をしてほしがる」(12.6%; 9.3%)、「ひざにのる」(11.7%; 8.0%)、「歩けるのにおんぶ、だっこをせがむ」(9.9%; 4.7%)、「指しゃぶり・爪かみ」(6.3%; 4.0%)、「女性の乳房を吸う、触る」(6.3%; 3.3%)、「幼児語の使用」(4.5%; 4.6%)、「赤ちゃん言葉の使用」(4.5%; 3.3%)、「遺尿・遺糞がみられる」(2.7%; 2.0%)、「歩かず這い這いする」(2.7%; 0.0%)などで、「哺乳瓶から飲みたがる」は「その他のGH」で1名(0.0%; 0.7%)みられただけで、「おむつをあててほしがる」という行動は一人もみられなかった(表36)。

被虐待経験の再現がみられたのは地域小規模型GH18.0%、「その他のGH」で8.7%であった。

対象となった児童のうち、本体施設からグループホームに措置変更となったものは、地域小規模型GH

Hでは82.0%、「その他のGH」では46.7%いた。これらの児童において、児童養護施設ではみられなかったが、グループホームへきて出現した変化については、「お手伝い等の助け合い行動の定着」(76.9%; 52.9%)、「生活リズムの安定」(82.4%; 41.4%)、「生活における自分なりの創意工夫」(72.5%; 44.3%)、「地域の子どもの望ましい交流」(67.0%; 37.1%)、「ホーム内の子ども同士のケンカ」(54.9%; 34.3%)、「自分の親・家族への好意的感情」(46.2%; 24.3%)、「金銭感覚の体得」(45.1%; 20.0%)などが指摘された。「家庭に帰りたいとの主張」は地域小規模型GHの24.2%、「その他のGH」の12.9%に、「本体施設に帰りたいとの主張」は6.6%と8.6%にみられた(表37)。

IV 考察

筆者らは、要保護児童のためのグループホームについて、昨年度、自治体におけるGH制度の施行状況とGHの実態に関する調査を行った(庄司ほか, 2003)。本年度は、GH(里親型GHと施設分園型GH)の運営実績に関する実態調査と、GHに入所している子どもの実態調査を行った。

1 グループホームの運営について

里親型GHは17ホームのうち10ホームから回答が得られた。分園型GHは96ホームのうち69ホームから回答が得られたが、GHに含まれても、他のGHとは性格を異にする自活訓練事業実施施設を除いた48ホームについて検討を行った。

GHの定員は原則として6名であるが、現員児童数は4ないし6名のところが多かった。定員に関しては、「多すぎる」と「ちょうどよい」という回答が多くみられた。GHは規模が小さいために、そのときどきの入所児童の状況の影響を受けやすい。例えば、子どもの状況や組み合わせによっては6名を養育することが可能であるが、養育に手のかかる子どもが一人いると、6名を養育することは困難になったりする。したがって、入所児童数に関しては柔軟に考えることが必要であろう。

GH入所児童選定の要件に関しては、「家庭復帰が相当困難、または不可能であること」「乳幼児期からの家庭的生活の経験が乏しいこと」と、GH内での年齢、性別のバランスなどが、要件となることが示された。前者は、家庭的な生活経験をもちにくいという施設養育の課題と、それをふまえて子どもに家庭的生活を体験させるというGHの目的を反映

するものであろう。後者は、子ども側の条件というよりも、そのときどきのGHの状況を考慮するということであろう。

GHの運営上の要件としては、「専従職員同士の良好な関係」「研修やスーパービジョンの充実による職員の専門的力量的の向上」が指摘されたが、これは、施設職員にも通ずることであろう。これに対して、「代替要員の確保等による職員のリフレッシュ」は、小規模のため職員が少なく、また生活をともにする養育形態のために、休暇がとりにくいGH全般の特徴を示しているといえよう。

2 グループホームに入所している子どもの実態

里親型GHでは10ホームの46名について、分園型GHでは自活訓練事業実施指定施設を除き、356名について、回答が得られた。

調査時点での入所児童の年齢は幅が広い。GH入所時の年齢も幅が広いが、里親型では幼児期および学童期前半が多くを占めていた。調査時点までの入所期間も、1年未満から8年以上までにわたっているが、1、2年が多くを占めていた。GHは年齢的に幅の広い子どもたちを受けいれているが、入所期間は比較的新しいホームが多いこともあって、1、2年が主となっていた。しかし、退所児童数は少なく、長期に在在する児童もいることから、GHとして短期入所の児童が主となっているというよりも、ホームの歴史が長くなると、入所期間の長い児童も増えてくると考えられる。

児童のGH入所前の状況に関しては、里親型GHの場合、「家庭」からが約半数を占めているが、分園型GHでは「本体施設」からが約8割となっていた。このことは両者で目的が異なり、分園型GHはいわば「本体施設」の一部であり、「本体施設」におけるケアの一環であるといえよう。

入所児童の約半数に被虐待体験が、約1/4に障害が認められた。これらの割合は里親型GHと分園型GHに入所している児童では顕著な差はみられず、どちらの型のGHにおいても児童の養育においてこれらの条件を考慮すべきであることが示された。

GH入所児童が社会的養護を必要とするようになった主たる理由は、里親型GHと分園型GHではやや異なっていた。すなわち、里親型GHでは「父母の不明」や「父母の入院・疾病」が、分園型GHでは「父母の虐待・酷使」「父母の精神疾患・人格障害」がもっとも多い理由であった。このことは、措置における里親委託と施設入所のどちらにするかという児童相談所の判断を反映しているように思われ

る。

GHへの委託（措置変更）の理由については、里親型GH、分園型GHのどちらにおいても「家庭復帰が相当困難・不可能」「乳幼児期から家庭的な生活経験が乏しい」が上位2位を占め、グループホームが家庭的な環境で、長期にわたる養育を行う場として期待されていることが示されている。

児童福祉法第28条を適用したケースはとくに里親型GHでは比較的少なく、保護者とのトラブルへの対応が職員数の少ない里親型GHでは困難なことに配慮したものとと思われる。

児童と保護者との関係については、「一度も面会がない」が約1/4を占めているが、月1回というケースもあり、幅が広い。関係のあり方も、「安定している」「不安定である」「関わりがない」と児童によって、かなり状況が異なっていた。

父母の現在の状況は、いずれの型のGHでも、障害や経済的問題など、さまざまな問題があることが示された。

GHに入所した児童はさまざまな精神的また行動上の問題を表すことが示された。これらの問題には、GH（あるいは社会的養護）入所前の家庭での愛着形成の問題と被虐待体験、GHに措置変更される前の施設での養育体験、措置変更による喪失体験、GHでの養育体験、GH入所後の父母との関わりによる不安定さなど、多くの要因が関与していると考えられる。

これらの問題の中で、夜尿や緘黙の頻度の高さが注目される。退行は、里親型GHでは28.3%にみられた。分園型GHではこれより低くなっていたが、施設に分園と里親家庭という養育環境のちがいはあるのか、入所児童の背景や状態がちがうことによるのかは明らかではない。

入所児童が示すこれらの問題は、グループホームでの養育における重要な課題といえ、児童相談所も含めた社会的養護システムの改革の視野に含めるべき事項と考えられる。

3 施設・里親・グループホーム

グループホームの利用は、主として、家庭復帰が困難な子ども、あるいは乳幼児期から家庭生活を経験していない児童に家庭生活を経験させることにあると考えられている。家庭生活を経験するのであれば、里親の方が自然であり、望ましいとも考えられる。もちろん、里親家庭の数が少ない現状を考えれば、グループホームを利用する必要性は認められるが、グループホームは里親を補完するものにすぎな

いのか、里親とも施設ともちがう独自の役割があるのか、グループホームの機能を考える必要があるように思われる(下表)。

施設は集団生活であり、家庭生活とはかなりちがう面がある。日課、あらかじめ決まった献立にもとづく食事、少ない職員、交替制勤務、さまざまな問題を抱えた数多くの児童、地域との交流が少ない、児童間のいじめや暴力も無視できない問題といえる。他方、施設ではいつでも、どのような子どもでも対応が可能であり、職員は専門職であり、関わりのむずかしい児童の養育の知識、技術の積み重ねがある。また、最近では、面会をとおして親子関係再構築のプログラムを実践するなど、保護者への援助に積極的に取り組む施設もある。以上のことから、施設で

は、治療的ニーズや保護者のニーズに対応することが期待されるものといえよう。

里親では、家庭生活が営まれる。その家でのルールはあるが、施設における日課ほどには厳しい枠組みではない。里親およびその家族との継続的な関係を経験することができる。しかし、里親は子どもの養育に熱意はあり、研修を受けているにしても、専門職であるわけではない。また、主として里親夫婦の養育によるために、関わりのむずかしい児童(攻撃的言動の著しい児童など)のケアは不適當であろう。

加えて、里親家庭は集団として高い凝集性をもっているため、そこに新しくはっていくのが困難な児童(とくに年長児)もいるだろう。ただし、短期

表 施設・グループホーム・里親の比較

		施設 (大舎/中舎/小舎)	グループホーム (分園型/里親型)	里親 (養育里親)
集団特性	集団の形態	比較的規模の大きい集団	家庭的な集団	家庭
	凝集性	低い	やや低い	高い
	生活	家庭的でない	ある程度家庭的	家庭的
運営上の特性	日課にもとづく生活	あり	なし	なし
	職員 / 里親	専門職	専門職	専門職でない
	勤務 / 生活	交替制(職場)	交替制(職場) / 家族	家族
	地域交流	乏しい	ある	ある
	特徴的機能	治療的機能	混在	レジデンシャル機能
利用者の特性	入所条件	いつでも どんな子どもでも	いつでも ほぼどんな子どもでも	スケジュールによる 限界がある
	入所傾向	治療的ニーズが高い児童 家庭復帰児童	混在	社会的養護が長い児童 家庭復帰が困難な児童
	保護者への支援	可能	直接にはむずかしい	直接にはむずかしい
	28条適用ケース	可能	むずかしい	むずかしい
	課題	多職種協働による治療的・保護者支援機能の充実	レスパイト等のバックアップ体制の確保	レスパイト等のバックアップ体制の確保
備考	大舎ほどこれらの特性は大きい	自活訓練ホームについて別途検討の必要あり	専門里親や短期里親について別途検討の必要あり	

里親の持つ機能を検証し、タイプ別機能を検討することを否定するものではない。

また、児童の保護者（実親）に攻撃的言動などが認められる場合、里親が直接被害を受けかねないので、このようなケースを委託することも不適當である。さらに、里親の限界としては、児童相談所が行う保護者への支援に協力する必要はあるが、里親が直接保護者にはたらきかけるのは適當ではないことに留意すべきであろう。里親家庭は、児童の問題性が顕著ではなく、また保護者との間にトラブルが生じにくいケースの委託が適當だと考えられる。以上のことから、施設と比して、レジデンシャル機能の発揮により、児童の成長・発達ニーズを充足する傾向が強いと考えられる。

グループホームは、施設と里親の中間の養育形態といえるが、里親型GHと施設分園型GHとは共通するところと、ちがうところを指摘することができる。

共通点については、どちらも、地域と密接な関わりをもちながら、小規模で、地域において、家庭（的）環境での養育を行う。集団の凝集性は里親家庭よりも低く、思春期・青年期の児童にはGHの方が楽に生活できると感じる者もいるだろう。社会的養護のもとにいる児童の社会的自立ということを考えると、細々とした日常生活の集積からなるこれらグループホームや里親家庭の方が、施設での養育よりも望ましいといえ、年長児童に対するIL（自立生活）プログラムの確立に向け、さらなる研究と実践が推進されなければならない。

里親型GHと分園型GHのちがいに関しては、まず里親型GHのもっとも大きな特徴は夫婦で養育するところにある。里親型GHの職員は、元施設職員であることが多い。児童に対しては、継続的で、親密な関係を保障できるし、一般の養育里親に比べて、関わりのおもしろい児童の養育も可能であろう。

しかし、里親型GHでは、夫婦以外の職員やボランティアの確保が困難なこともある。休暇、レスパイトケアなど、支援体制の確立が重要である。近隣の児童養護施設などと連携して、その支援を受けられる体制をつくることが望まれる。

次に、分園型GHの特徴は、施設職員による養育（夫婦制あるいは住み込み制をとっているところは少ない）ということにある。とはいえ、分園型GHであっても、施設に比べれば、児童と職員の関係はより密接なものであることを指摘しておくべきであろう。

分園型GHの強みは本体施設との関係である。児

童のアセスメントや治療、おそらくは保護者への支援において、本体施設のセンター機能は大変重要であろう。ホームへの支援（職員の派遣）や職員の休暇への対応にも重要な役割をはたすであろう。児童が家庭的環境の中で、地域との交流をもちながら生活することの必要性を考えると、分園型GHの発展が望まれる。

これらのことを考えると、施設か里親かという二者択一から、GHを加え、選択肢を拡大することには意義があると考えられる。

しかし、現状では、GHへの入所理由に「たまたま空きがあった」ことも含まれているように、施設、グループホーム、里親の特性と子どもの状況を考慮した、適切な選択がなされているとは言い難いように思われる。いずれのGHにおいても、施設に比べて小規模である分、そのときどきの入所している子どもの状態の影響を受けやすい。例えば、非常に手のかかる子どもが一人いると、その子への対応に追われてしまう。したがって、入所児童数について、機械的に定員を埋めるというのではなく、柔軟に考える必要がある。

ただし、この背景には、施設満床状況や登録里親数の絶対的不足などの要因が考えられ、社会資源の量的確保策もあわせて検討されねばならない。

そして、施設分園型GHにおいても、里親型GHにおいても、入所児童にはさまざまな精神的・行動上の問題がみられ、その対応は、日々の関わりから精神科や心理カウンセリング受診まで、負担が大きいことにも留意する必要がある。児童相談所や本体施設のバックアップ機能や研修に対するニーズが強くあることが本調査でも明らかとなっており、GHの質をいかに担保して拡充するかが、大きな課題となってくると思われる。

文 献

庄司順一・才村 純・澁谷昌史・小山 修・伊藤嘉余子ほか：グループホームの現状と課題(Ⅰ)、日本子ども家庭総合研究所紀要、39：83-149、2003

<里親型 GH 実態調査結果>

表 1-1 里子の受託以降の実子への影響(MA)

	実数	%
年下の子どもに対する優しさ、思いやりが出てきた	4	40.0
不登校やひきこもり等の非社会的行動が出てきた	1	10.0
お手伝い等、親を積極的に助けるようになった	2	20.0
学校の成績が上がった	1	10.0
その他	2	20.0
特に影響はみられない	1	10.0

表 1-2 里子の受託以降の実子への影響「その他」具体記述

<p>委託するケースによって情緒面に変化が出てくることがある。(私たちのホームは実子が幼い状態からスタートしたため、委託をしたケースも中高生の女子のケースを短期で多く見てきたので)言葉使いなどで乱暴な話し方をまねする事などがあつた。</p> <p>精神的ストレスを感じる場面が見受けられるようになった。</p>

表 1-3 実子に何らかの問題が見られるようになったときの対応(MA)

	実数	%
生活は変えず実子に声かけ/甘えさせる等関わりを増やした	2	20.0
措置変更又は新規委託を断る等、里親や里子の負担軽減	1	10.0

表 2-1 GH 入所児童安定のために必要な運営上の要件(MA)

	実数	%
代替要員の確保等による GH 里親のリフレッシュ	2	20.0
研修やスーパービジョンの充実による GH 里親の専門的力量的の向上	4	40.0
GH の子どもと地域との交流	5	50.0
GH 里親に対する家賃や生活費等の財政的援助の充実	4	40.0
GH 里親に対する手当の増額	0	—
GH 里親がアルバイトやボランティアを雇えるような人件費の保障	7	70.0
他の GH 里親との良好な関係、情報交換	0	—
他の養育里親家庭との良好な関係、情報交換	1	10.0
その他	5	50.0

表 2-2 GH 入所児童安定のために必要な運営上の要件「その他」

<p>グループホームに対する児相及び主管課の理解</p> <p>全員で旅行する事がある。1 回だけでもいいから費用の援助があったらいい。</p> <p>里親も児童にとっても旅行もリフレッシュに欠かせないものです。</p> <p>賃貸ではなく安定した家屋の確保</p> <p>心理を含む医療機関・警察などの連携</p> <p>代替委員は必要としないが里親の精神衛生を保つ事。</p> <p>実子など里親家族の精神衛生。地域及び学校の理解。</p>
--

表 3 GH 運営上の課題について(自由記述)

<p>〇〇市もこの1~2年で2件のグループホームが増設され、社会的養護の使命を果たしているという形をとってはいるが、児童の委託先として施設が一杯だからただ単にその受け皿としての一つの方法、数としてしか見ていない状況である。何の為にグループホームが必要かという点がぼやけているように感じてならない。市財政から一里親に多額な補助金を出しているのだから、それに見合う定員の充足を何が何でもしろというような。</p> <p>養育につき体験を通して言語化・理論化していくこと。</p> <p>養育里親家庭だったのが、子どもが4人になることになり、ファミリーホームの認定を受けました。里親型グループホームとして登録されている方とは少し違うと思いますがファミリーホームとして当てはまる回答をさせていただきました。運営上の課題も児相の連携状況も養育里親と全く同じで、一人一人の子どもの児相が違うので、福祉士さんは自分の担当の子どもしか関わってもらえず、とても不便を感じています。</p> <p>ホームの閉じ方について考えている。それによって今後の入所児童のニーズとの関連がホームのあり方を決めていくように思っている。</p> <p>〇〇市のFGH制度では住居に関して借家でないと賃貸補助が支給されないで、(現実的にそれなりの広さを持つ持ち家を所有する事も難しいが)現在の借家がずっと借りられる保証もなく不安はある。市の所有物権など安定した住居の確保が望まれる。養育者の休息に関して、レスパイトケアだけではなくホームに補助スタッフを配置する方法も考えていべきだろうと思う。</p> <p>定員について、児童のケースは様々で、通常の生活ができていない児童は10名程度でも対応できるが、障害や問題行動が著しい児童は少人数でも大変だと思う。定員については単に人数で定めるのではなく、ケースに応じて対応できるような制度を考えて欲しい。</p> <p>幼児の受け入れに対して運営に当たり人件費(アルバイト)加算があればもっと多くの児童がグループホームでの受け入れが可能になると考えられます。幼い時から早い時期に地域で育つことを保証していきたいと願っています。</p> <p>十分な広さと間取りの家屋の確保。夫婦専任体制。サポートや保障の充実。</p>

<分園型 GH 実態調査>

表4 ホームの定員児童数

	5人以下		6人		7人以上		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
地域小規模 GH	0	0.0	18	94.7	0	0.0	1	5.3	19	100.0
その他の GH	8	27.6	18	62.1	3	10.3	0	0.0	29	100.0

表5 ホームの現員児童数(平成15年11月1日現在)

	5人以下		6人		7人以上		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
地域小規模 GH	4	21.1	14	73.7	1	5.3	0	0.0	19	100.0
その他の GH	12	41.4	15	51.7	2	6.9	0	0.0	29	100.0

表6 GHの職員数(1ホームあたり)

	1人		2人		3人		4人		5人		6人		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
地域小規模 GH	0	0.0	2	10.5	11	57.9	4	21.1	1	5.3	1	5.3	0	0.0	19	100.0
その他の GH	3	10.3	10	34.5	14	48.3	2	6.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	29	100.0

表7 GH入所児童選定の要件

項目	種別	実数	%			実数	%
年齢が低いこと	地域小規模 GH	4	21.1	無断外出がないこと	地域小規模 GH	6	31.6
	その他の GH	11	37.9		その他の GH	10	34.5
年齢のバランス	地域小規模 GH	17	89.5	対人関係にかかる問題がないこと	地域小規模 GH	4	21.1
	その他の GH	25	86.2		その他の GH	3	10.3
性別のバランス	地域小規模 GH	16	84.2	攻撃性が見られないこと	地域小規模 GH	11	57.9
	その他の GH	23	79.3		その他の GH	10	34.5
被虐待経験がないこと	地域小規模 GH	1	5.3	本体施設職員との相性がよくないこと	地域小規模 GH	1	5.3
	その他の GH	2	6.9		その他の GH	2	6.9
被虐待経験があること	地域小規模 GH	6	31.6	GH職員との相性がよいこと	地域小規模 GH	6	31.6
	その他の GH	2	6.9		その他の GH	3	10.3
家庭復帰が困難、または不可能	地域小規模 GH	19	100.0	知的能力が著しく低いこと	地域小規模 GH	3	15.8
	その他の GH	19	65.5		その他の GH	2	6.9
強引な引き取り要求がないこと	地域小規模 GH	9	47.4	慢性疾患がないこと	地域小規模 GH	4	21.1
	その他の GH	5	17.2		その他の GH	5	17.2
家庭復帰の可能性が高いこと	地域小規模 GH	6	31.6	リービング・ケアの時期にあること	地域小規模 GH	6	31.6
	その他の GH	12	41.4		その他の GH	7	24.1
家庭的生活の体験が乏しい	地域小規模 GH	18	94.7	児童本人の希望があること	地域小規模 GH	14	73.7
	その他の GH	25	86.2		その他の GH	13	44.8
社会的養護の期間が長い	地域小規模 GH	11	57.9	保護者の了解や希望があること	地域小規模 GH	9	47.4
	その他の GH	17	58.6		その他の GH	5	17.2
きょうだい関係の改善・構築が必要	地域小規模 GH	10	52.6	たまたま空きがある(本体施設が一杯)	地域小規模 GH	5	26.4
	その他の GH	9	31.0		その他の GH	11	37.9

※ %は、当該項目に関して、「頻繁に要件となる」「しばしば要件となる」と回答したものが調査回答施設数に占める割合を示している

<GHに入所している子どもの実態調査>

表8 児童の現在の年齢(平成15年11月1日現在)

	1～3歳		4～6歳		7～9歳		10～12歳		13～15歳		16～18歳		19歳以上		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	1	2.2	3	6.5	7	15.2	15	32.6	10	21.7	10	21.7	0	0.0	0	0.0	46	100.0
地域小規模 GH	2	1.8	16	14.4	24	21.6	25	22.5	21	18.9	21	18.9	1	0.9	1	0.9	111	100.0
その他の GH	9	6.0	20	13.3	25	16.7	32	21.3	34	22.7	25	16.7	1	0.7	4	2.7	150	100.0

表9 児童のGH入所時年齢

	2歳以下		3～5歳		6～8歳		9～11歳		12～14歳		15～17歳		18歳以上		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	5	10.9	10	21.7	17	37.0	5	10.9	5	10.9	4	8.7	0	0.0	0	0.0	46	100.0
地域小規模 GH	4	3.6	20	18.0	32	28.8	24	21.6	16	14.4	13	11.7	1	0.9	1	0.9	111	100.0
その他の GH	16	10.7	35	23.3	43	28.7	21	14.0	27	18.0	7	4.7	0	—	1	0.7	150	100.0

表10 現在のGHでの入所期間

	1年未満		1年		2年		3年		4年		5年	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	4	8.7	6	13.0	12	26.1	4	8.7	3	6.5	3	6.5
地域小規模 GH	28	25.2	25	22.5	34	30.6	12	10.8	2	1.8	3	2.7
その他の GH	38	25.3	28	18.7	20	13.3	9	6.0	10	6.7	10	6.7
	6年		7年		8年以上		無回答		合計			
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
里親型 GH	2	4.3	4	8.7	8	17.4	0	0.0	46	100.0		
地域小規模 GH	2	1.8	4	3.6	1	0.9	0	0.0	111	100.0		
その他の GH	10	6.7	4	2.7	13	8.7	8	5.3	150	100.0		

表11 児童の就学状況(平成15年11月1日現在)

	幼稚園/ 保育園		小学生		中学生		高校生		未就学/就労/ 無職等		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	3	6.5	20	43.5	12	26.1	9	19.6	1	2.2	1	2.2	46	100.0
地域小規模 GH	10	9.0	50	45.0	24	21.6	25	22.5	2	1.8	0	—	111	100.0
その他の GH	14	9.3	57	38.0	35	23.3	33	22.0	9	6.0	2	1.3	150	100.0

表12 児童の入所前の生活場所

	家庭から		本体施設 から		児童養護施設*		乳児院から		里親家庭 から		その他		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	24	52.2	—	—	10	21.7	7	15.2	2	4.3	3	6.5	0	0.0	46	100.0
地域小規模 GH	11	9.9	87	78.4	4	3.6	9	8.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	111	100.0
その他の GH	57	38.0	63	42.0	6	4.0	17	11.3	1	0.7	5	3.3	1	0.7	150	100.0

* 分園型 GHについては、「本体施設以外の児童養護施設」を意味する

表 13 児童の児童福祉施設入所期間(本体施設、GH、里親委託など)

	1年未満		1～3年未満		3～6年未満		6～9年未満		9～12年未満		12年以上		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	1	2.2	9	19.6	11	23.9	5	10.9	4	8.7	9	19.6	7	15.2	46	100.0
地域小規模 GH	2	1.8	22	19.8	29	26.1	24	21.6	17	15.3	13	11.7	4	3.6	111	100.0
その他の GH	10	6.7	32	21.3	23	15.3	22	14.7	13	8.7	19	12.7	31	20.7	150	100.0

表 14 GH 入所前のアドミッション・ケア(MA)

	児童とホーム職員*の面接		児童の保護者とホーム職員*の面接		児童のホーム見学		児童の保護者のホーム見学		児相からホームへ親子の情報提供(電話含まず)	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	40	87.0	10	21.7	33	71.7	9	19.6	35	76.1
地域小規模 GH	86	77.5	31	27.9	60	54.1	14	12.6	20	18.0
その他の GH	108	72.0	40	26.7	76	50.7	25	16.7	64	42.7

* : 里親型 GH については、「里親」を意味する

表 15-1 児童票による児童の被虐待体験(MA)

	身体的虐待		ネグレクト		性的虐待		心理的虐待		被虐待体験なし	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	8	17.4	13	28.3	0	0.0	2	4.3	26	56.5
地域小規模 GH	22	19.8	40	36.0	1	0.9	14	12.6	49	44.1
その他の GH	36	24.0	44	29.3	7	4.7	15	10.0	62	41.3

表 15-2 GH 職員の判断による児童の被虐待体験(MA)

	身体的虐待		ネグレクト		性的虐待		心理的虐待		被虐待体験なし	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	12	26.1	15	32.6	0	0.0	6	13.0	21	45.7
地域小規模 GH	26	23.4	52	46.8	2	1.8	22	19.8	37	33.3
その他の GH	34	22.7	56	37.3	8	5.3	20	13.3	52	34.7

表 16 児童の障害の有無(MA)

	身体障害		知的障害 (疑い含む)		精神・人格障害 (疑い含む)		発達障害/自閉症 /ADHD 等(疑い含む)		いずれにも あてはまらない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	1	2.2	5	10.9	1	2.2	4	8.7	34	73.9
地域小規模 GH	1	0.9	18	16.2	2	1.8	7	6.3	82	73.9
その他の GH	2	1.3	12	8.0	3	2.0	9	6.0	119	79.3

小山他：グループホームの現状と課題(2)

表 17 児童の現在の学力状態

	当該学年の授業に余裕をもってついでおり、学力は高いとみられる		当該学年の授業についているようである		当該学年の授業より1年程度遅れている。又は一部の科目が著しく遅れている		当該学年より2年程度遅れている		当該学年より3年以上遅れている。又は授業内容がまったくわからないようだ		就学していない		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	3	6.5	28	60.9	5	10.9	4	8.7	2	4.3	4	8.7	0	0.0	46	100.0
地域小規模 GH	11	9.9	52	46.8	15	13.5	7	6.3	14	12.6	12	10.8	0	—	111	100.0
その他の GH	11	7.3	76	50.7	24	16.0	6	4.0	8	5.3	23	15.3	2	1.3	150	100.0

表 18 児童の入所時から現在までの学力の変化

	現在の方が学力が高い		現在の方が学力が低い		学力はあまり変わらない		就学していない		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	22	47.8	1	2.2	19	41.3	4	8.7	0	0.0	46	100.0
地域小規模 GH	44	39.6	11	9.9	42	37.8	12	10.8	2	1.8	111	100.0
その他の GH	63	42.0	3	2.0	56	37.3	23	15.3	5	3.3	150	100.0

表 19 入所理由(本体施設入所時の家族の問題)

	父母の死亡		父母の行方不明		父母の離婚		親の未婚		父母の不和		父母の拘禁	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	2	4.3	8	17.4	3	6.5			2	4.3	8	17.4
地域小規模 GH	6	5.4	9	8.1	8	7.2	2	1.8	0	0.0	4	3.6
その他の GH	7	4.7	9	6.0	9	6.0	2	1.3	1	0.7	3	2.0
	父母の入院/疾病		父母の精神疾患/人格障害等		父母の就労		父母の放任/怠惰		父母の虐待/酷使		棄児	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	8	17.4	5	10.9	2	4.3	3	6.5	1	2.2	1	2.2
地域小規模 GH	6	5.4	12	10.8	9	8.1	10	9.0	15	13.5	2	1.8
その他の GH	7	4.7	16	10.7	20	13.3	12	8.0	23	15.3	6	4.0
	養育拒否		破産等の経済的理由		児童の問題による監護困難		その他		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	1	2.2	5	10.9	1	2.2	3	6.5	1	2.2	46	100.0
地域小規模 GH	5	4.5	6	5.4	2	1.8	13	11.7	2	1.8	111	100.0
その他の GH	9	6.0	2	1.3	2	1.3	10	7.0	11	7.3	150	100.0

表 20 児童の保護者

	実父母		実父養母		養父実母		実父継母		継父実母		実父のみ		実母のみ		養父のみ		養母のみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	6	13.0	0	0.0	0	0.0	3	6.5	1	2.2	11	23.9	19	41.3	0	0.0	0	0.0
地域小規模 GH	25	22.5	1	0.9	3	2.7	1	0.9	4	3.6	22	19.8	36	32.4	0	0.0	0	0.0
その他の GH	19	12.7	0	0.0	4	2.7	4	2.7	12	8.0	38	25.3	50	33.3	1	0.7	0	0.0
	継母のみ		きょうだい		祖父母		祖父のみ		祖母のみ		その他		不明		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	4.3	4	8.7	0	0.0	46	100.0
地域小規模 GH	0	0.0	2	1.8	0	0.0	0	0.0	2	1.8	9	8.1	5	4.5	1	0.9	111	100.0
その他の GH	1	0.7	0	0.0	1	0.7	1	0.7	3	2.0	7	4.7	2	1.3	7	4.7	150	100.0

表 21 児童の父母の現在の状態(MA)

	身体障害あり、又は 虚弱等により身体的 活動に著しい制限あり		知的障害あり 又はその疑いあり		精神障害あり 又はその疑いあり		人格障害あり 又はその疑いあり		薬物やアルコール依存 又はその疑いあり		被虐待体験あり	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	4	8.7	6	13.0	6	13.0	3	6.5	6	13.0	0	0.0
地域小規模 GH	4	3.6	13	11.7	17	15.3	1	0.9	9	8.1	8	7.2
その他の GH	3	2.0	8	5.3	21	14.0	4	2.7	14	9.3	8	5.3
	主たる生計をたてる 上で所得保障制度を 利用		その他		いずれにも あてはまらない		不明		非該当 (保護者行方不明等)			
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	14	30.4	2	4.3	10	21.7	7	15.2	8	17.4		
地域小規模 GH	19	17.1	20	18.0	19	17.1	7	6.3	19	17.1		
その他の GH	21	14.0	24	16.0	44	29.3	17	11.3	7	4.7		

表 22 児童の血縁のきょうだいの有無

	1人		2人		3人		4人		5人		6人	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	9	19.6	9	19.6	4	8.7	1	2.2	0	0.0	0	0.0
地域小規模 GH	43	38.7	14	12.6	8	7.2	4	3.6	6	5.4	2	1.8
その他の GH	45	30.0	22	14.7	14	9.3	4	2.7	4	2.7	0	0.0
	7人		11人		人数不明		0人		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	0	0.0	0	0.0	4	8.7	19	41.3	0	0.0	46	100.0
地域小規模 GH	0	0.0	0	0.0	4	3.6	30	27.0	0	0.0	111	100.0
その他の GH	0	0.0	0	0.0	9	6.0	42	28.0	10	6.7	150	100.0

小山他：グループホームの現状と課題(2)

表 23 児童の血縁のきょうだい、どこで生活しているか(MA)

	本児と同じ GH		本児と別の福祉施設		本児の家族		その他		不明	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	7	15.2	8	17.4	8	17.4	4	8.7	6	13.0
地域小規模 GH	39	35.1	15	13.5	22	19.8	19	17.1	6	4.4
その他の GH	32	21.3	26	17.3	25	16.7	36	24.0	4	2.7

表 24 児童の GH への委託(変更)理由(MA)

	年齢が低い		年齢が高い (リービングケア)		被虐待体験が ない		被虐待体験が ある		乳幼児期から 家庭的な生活経 験が乏しい		社会的養護の 期間が長い		無断外出等の 問題がない		対人関係に係 る問題がない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	8	17.4	2	4.3	0	0.0	16	34.8	1	2.2	1	2.2	0	0.0	0	0.0
地域小規模 GH	11	9.9	9	8.1	1	0.9	11	9.9	46	41.4	19	17.1	2	1.8	0	0.0
その他の GH	12	8.0	7	4.6	0	0.0	14	9.4	51	33.9	17	11.4	1	0.7	4	2.7
	攻撃性が強い		慢性疾患が ない		知的能力に 問題がない		施設で不適応		ホーム内の 年齢のバランス		ホーム内の 性別のバランス		ホーム職員*と の相性が良い		たまたま 空きがあった	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	0	0.0	1	2.2	1	2.2	4	8.7	6	13.0	5	10.9	4	8.7	10	21.7
地域小規模 GH	2	1.8	0	0.0	3	2.7	6	5.4	27	24.3	11	9.9	9	8.1	9	8.1
その他の GH	2	1.3	5	3.4	4	2.7	4	2.7	30	20.0	20	13.3	3	2.0	23	15.3
	家庭復帰が相 当困難/不可 能		保護者の強引 な引取要求が ない		家庭復帰の可 能性が高い		きょうだい関 係の改善/構 築が必要		本人の了解/ 希望がある		保護者の了解 /希望がある		その他			
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
里親型 GH	25	54.3	1	2.2	5	10.9	3	6.5	1	2.2	5	10.9	11	23.9		
地域小規模 GH	83	74.7	2	1.8	12	10.8	14	12.6	25	22.5	1	0.9	11	9.9		
その他の GH	52	34.6	0	—	11	7.3	7	4.6	25	16.7	5	3.4	13	8.7		

* 里親型 GH については、「里親」を意味している

表 25 児童が GH に来てからの長期にわたる一般病院への通院経験

	過去にある		現在通院中		通院経験なし		その他		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	9	19.6	2	4.3	34	73.9	1	2.2	0	0.0	46	2.2
地域小規模 GH	14	12.6	18	16.2	78	70.3	0	0.0	1	0.9	111	100.0
その他の GH	8	5.3	18	12.0	121	80.7	0	0.0	3	2.0	150	100.0

表 26 児童が GH に来てからの精神科・心理療法士による治療経験

	過去にある		現在受療中		受療経験なし		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	7	15.2	3	6.5	36	78.3	0	0.0	46	100.0
地域小規模 GH	11	9.9	23	20.7	76	68.5	1	0.9	111	100.0
その他の GH	17	11.3	37	24.7	91	60.7	5	3.3	150	100.0

表 27 児童の児童福祉法第 28 条適用の有無

	適用した		適用していない		わからない		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	1	2.2	37	80.4	4	8.7	4	8.7	46	100.0
地域小規模 GH	2	1.8	92	82.9	8	7.2	9	8.1	111	100.0
その他の GH	10	6.7	127	84.7	1	0.7	12	8.0	150	100.0

表 28 児童と保護者の面会・通信頻度

	週 1 日以上		月に数回		月に 1 回		年に数回		年に 1 回		1 度も面会なし		非該当 (保護者がいない、入所したばかり等)		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	1	2.2	5	10.9	8	17.4	8	17.4	3	6.5	12	26.1	9	19.6	0	0.0	46	100.0
地域小規模 GH	2	1.8	11	9.9	11	9.9	33	29.7	1	0.9	29	26.1	21	18.9	3	2.7	111	100.0
その他の GH	13	8.7	25	16.7	19	12.7	41	27.3	5	3.3	26	17.3	13	8.7	8	5.3	150	100.0

表 29 児童の家庭への帰省頻度

	週 1 日以上		月に数回		月に 1 回		年に数回		年に 1 回		1 度も帰省なし		非該当 (保護者がいない、入所したばかり等)		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	1	2.2	4	8.7	9	19.6	7	15.2	2	4.3	12	26.1	11	23.9	0	0.0		100.0
地域小規模 GH	0	0.0	7	6.3	2	1.8	27	24.3	8	7.2	40	36.0	25	22.5	2	1.8	111	100.0
その他の GH	10	6.7	14	9.3	11	7.3	41	27.3	8	5.3	42	28.0	18	12.0	6	4.0	150	100.0

表 30 児童と保護者との関係

	非常に安定している		まあ安定している		やや不安定である		非常に不安定である		かかわりはまったくない		非該当(保護者行方不明等)		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	3	6.5	14	30.4	5	10.9	4	8.7	7	15.2	12	26.1	1	2.2	46	100.0
地域小規模 GH	7	6.3	22	19.8	19	17.1	10	9.0	23	20.7	29	26.1	1	0.9	111	100.0
その他の GH	15	10.0	44	29.3	32	21.3	13	8.7	26	17.3	13	8.7	7	4.7	150	100.0

表 31 児童の保護者と施設*との関係

	面会、電話等、施設との約束をしっかりと守れている		面会、電話等、施設との約束をたまに破ることがある		面会、電話等施設との約束をほとんど守ることができない		施設と保護者とのかかわりはまったくない		非該当 (保護者行方不明等)		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	14	30.4	8	17.4	1	2.2	10	21.7	12	26.1	1	2.2	46	100.0
地域小規模 GH	33	29.7	17	15.3	7	6.3	21	18.9	30	27.0	3	2.7	111	100.0
その他の GH	59	39.3	31	20.7	10	6.7	23	15.3	19	12.7	8	5.3	150	100.0

* 里親型 GH については、「里親」を意味する。

小山他：グループホームの現状と課題(2)

表 32 児童から保護者への期待

	保護者に会いたいという 訴えが頻繁にある		保護者に会いたいという 訴えが時々ある		保護者に会いたくないと いう訴えが時々ある		保護者に会いたくないと いう訴えが頻繁にある		保護者の話題が出ること はほとんどない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	2	4.3	17	37.0	2	4.3	0	0.0	13	28.3
地域小規模 GH	7	6.3	57	51.4	5	4.5	2	1.8	19	17.1
その他の GH	13	8.7	73	48.7	5	3.3	2	1.3	27	18.0
	保護者とのかわり まったくない		非該当 (保護者行方不明等)		無回答		合計			
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	3	6.5	9	19.6	0	0.0	46	100.0		
地域小規模 GH	6	5.4	13	11.7	2	1.8	111	100.0		
その他の GH	12	8.0	15	10.0	3	2.0	150	100.0		

表 33 (次頁)

表 34 児童の退行

	ある		ない		無回答		合計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	13	28.3	27	58.7	6	13.0	46	100.0
地域小規模 GH	25	22.5	71	64.0	15	13.5	111	100.0
その他の GH	22	14.7	118	78.7	10	6.7	150	100.0

表 35 退行がみられた時期

	入所当初～ 2ヶ月め		入所当初～ 8ヶ月め		入所当初 ～1年め		入所当初 ～2年め		入所当初 ～3年め		入所1ヶ月 ～3年め		入所1ヶ月 ～現在		入所2ヶ月 ～8ヶ月め		入所2ヶ月 ～2年目	
	実数	%	実数	%	実数	実数	%	実数	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	1	2.2	1	2.2	1	2.2	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	4.3
地域小規模 GH	0	0.0	0	0.0	1	0.9	2	1.8	1	0.9	2	1.8	1	0.9	0	0.0	0	0.0
その他の GH	0	0.0	0	0.0	1	0.7	3	2.0	2	1.3	2	1.3	0	0.0	1	0.7	0	0.0
	入所3ヶ月 ～8ヶ月め		入所3ヶ月 ～1年め		入所3ヶ月 ～4年め		入所4ヶ月 ～1年半		入所5ヶ月 ～1年半		入所半年後 ～2年め		入所10ヶ月 ～2年半		入所2年め ～4年め		入所4ヶ月 ～1年半	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
里親型 GH	1	2.2	2	4.3	1	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
地域小規模 GH	0	0.0	3	2.7	0	0.0	1	0.9	1	0.9	3	2.7	1	0.9	0	—	1	0.9
その他の GH	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.7	0	0.0
	非該当 無回答		合計															
	実数	%	実数	%														
里親型 GH	36	78.3	46	100.0														
地域小規模 GH	93	83.8	111	100.0														
その他の GH	137	91.3	150	100.0														

表 33 児童の精神・行動の状況

項目	種別	実数	%		種別	実数	%
緘黙	里親型 GH	6	13.0	チック	里親型 GH	5	10.9
	地域小規模 GH	12	10.7		地域小規模 GH	1	0.9
	その他の GH	16	10.7		その他の GH	11	7.3
多動	里親型 GH	7	15.2	性への強い関心	里親型 GH	5	10.9
	地域小規模 GH	12	10.7		地域小規模 GH	14	12.6
	その他の GH	14	9.3		その他の GH	13	8.7
過度のなれなれしさ	里親型 GH	8	17.4	不潔恐怖等強迫行為	里親型 GH	1	2.2
	地域小規模 GH	18	16.2		地域小規模 GH	2	1.8
	その他の GH	36	24.0		その他の GH	7	4.7
著しい無気力／無表情	里親型 GH	4	8.7	ひきつけ／てんかん	里親型 GH	0	0.0
	地域小規模 GH	15	16.7		地域小規模 GH	3	2.7
	その他の GH	16	10.7		その他の GH	0	0.0
怒りっぽさ	里親型 GH	5	10.9	他児への暴力	里親型 GH	6	13.0
	地域小規模 GH	30	27.0		地域小規模 GH	15	13.5
	その他の GH	40	26.7		その他の GH	19	12.7
違法／犯罪行為	里親型 GH	5	10.9	他児にいじめられる	里親型 GH	2	4.3
	地域小規模 GH	8	7.2		地域小規模 GH	12	10.8
	その他の GH	9	6.0		その他の GH	23	15.3
不眠／夜驚等睡眠障害	里親型 GH	4	8.7	無断外出／外泊	里親型 GH	4	8.7
	地域小規模 GH	6	5.4		地域小規模 GH	6	5.4
	その他の GH	10	6.7		その他の GH	12	8.0
夜尿	里親型 GH	10	21.7	浪費	里親型 GH	3	6.5
	地域小規模 GH	32	28.8		地域小規模 GH	2	1.8
	その他の GH	33	22.0		その他の GH	10	6.7
過食	里親型 GH	8	17.4	不登校	里親型 GH	0	0.0
	地域小規模 GH	14	12.6		地域小規模 GH	7	6.3
	その他の GH	16	10.7		その他の GH	6	4.0
拒食	里親型 GH	0	0.0	リストカット	里親型 GH	2	4.3
	地域小規模 GH	2	1.8		地域小規模 GH	0	0.0
	その他の GH	2	1.3		その他の GH	1	0.7
退行	里親型 GH	9	19.6	その他	里親型 GH	2	4.3
	地域小規模 GH	17	15.3		地域小規模 GH	6	5.4
	その他の GH	8	5.3		その他の GH	9	6.0

※ %は、当該項目が過去及び現在見られたと回答があったものの全体に占める割合を示している

小山他：グループホームの現状と課題(2)

表 36 退行でみられた行動

		入所当初のみ		入所～半年後		入所～1年後		入所～現在		入所半年後のみ		入所半年～1年後		入所半年～現在		入所1年後のみ		入所1年～現在		現在のみ		合計	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
赤ちゃん言葉の使用	①	1	2.2	3	6.5	1	2.2	1	2.2													6	13.0
	②									3	2.7					1	0.9			1	0.9	5	4.5
	③	2	1.3					1	0.7									1	0.7	1	0.7	5	3.3
幼児語の使用	①			2	4.3			1	2.2			1	2.2			1	2.2					5	10.9
	②									2	1.8			1	0.9					2	1.8	5	4.5
	③					1	0.7	1	0.7	1	0.7	1	0.7					1	0.7	2	1.3	7	4.6
添い寝をして欲しがる	①	3	6.5	3	6.5	1	2.2	3	6.5							1	2.2					11	23.9
	②					1	0.9	3	2.7	2	1.8			2	1.8	1	0.9	1	0.9	4	3.6	14	12.6
	③			2	1.3	3	2.0	1	0.7	2	1.3			3	2.0	1	0.7			2	1.3	14	9.3
指しゃぶり/爪かみ	①			1	2.2	3	6.5	4	8.7							1	2.2					9	19.6
	②					1	0.9	2	1.8	3	2.7									1	0.9	7	6.3
	③					2	1.3					2	1.3					1	0.7	1	0.7	6	4.0
ひざにのる	①	1	2.2	2	4.3	2	4.3	4	8.7													9	19.6
	②					1	0.9	3	2.7	3	2.7			2	1.8	1	0.9	1	0.9	2	1.8	13	11.7
	③	1	0.7	3	2.0	1	0.7	2	1.3	2	1.3			1	0.7					2	1.3	12	8.0
女性の乳房を吸う/触る	①	1	2.2	1	2.2			1	2.2	1	2.2	1	2.2									5	10.9
	②			1	0.9	2	1.8			2	1.8									2	1.8	7	6.3
	③	1	0.7									1	0.7	2	1.3					1	0.7	5	3.3
哺乳ビンから飲みたがる	①																					0	0.0
	②																					0	0.0
	③																		1	0.7	1	0.7	
オムツをあてて欲しがる	①			2	4.3																	2	4.3
	②																					0	0.0
	③																					0	0.0
遺尿/遺糞が見られる	①			4	8.7																	4	8.7
	②					2	1.8					1	0.9									3	2.7
	③					1	0.7											2	1.3	2	1.3	3	2.0
歩かずハイハイする	①	1	2.2	1	2.2																	2	4.3
	②									3	2.7											3	2.7
	③																					0	0.0
歩けるのにおんぶ/抱っこをせがむ	①	1	2.2	2	4.3	4	8.7	2	4.3													9	19.6
	②					4	3.6	2	1.8	3	2.7			1	0.9					1	0.9	11	9.9
	③	2	1.3	1	0.7			1	0.7	1	0.7			1	0.7					1	0.7	7	4.7

※ ①：里親型 GH、②：地域小規模 GH、③：その他の GH

※ %はいずれも当該項目が各 GH ごとの調査回答人数に占める割合を示している。

※ 空欄は、該当者なしを意味する

表 37 本体施設*では見られなかったが GH に来てから出現した児童の変化 (MA)

項目	種別	実数	%
無断外出	里親型 GH	2	18.2
	地域小規模 GH	9	9.9
	その他の GH	2	2.9
ホーム内の子ども同士のけんか/口論	里親型 GH	1	9.1
	地域小規模 GH	50	54.9
	その他の GH	24	34.3
きょうだいげんか/口論	里親型 GH	1	9.1
	地域小規模 GH	25	27.5
	その他の GH	5	7.1
本体施設*に戻りたいとの主張	里親型 GH	0	0.0
	地域小規模 GH	6	6.6
	その他の GH	6	8.6
家庭に帰りたいとの主張	里親型 GH	1	9.1
	地域小規模 GH	22	24.2
	その他の GH	9	12.9
地域の子どもの反社会的交流	里親型 GH	1	9.1
	地域小規模 GH	3	3.3
	その他の GH	0	0.0
地域の子どもの望ましい交流	里親型 GH	6	54.5
	地域小規模 GH	61	67.0
	その他の GH	26	37.1
自分における自分なりの創意工夫	里親型 GH	3	27.3
	地域小規模 GH	66	72.5
	その他の GH	31	44.3
お手伝い等助け合い行動の定着	里親型 GH	4	36.4
	地域小規模 GH	70	76.9
	その他の GH	37	52.9

自分の親/家族への好意的感情	里親型 GH	4	36.4
	地域小規模 GH	42	46.2
	その他の GH	17	24.3
自分の親/家族への否定的感情	里親型 GH	0	0.0
	地域小規模 GH	10	11.0
	その他の GH	11	15.7
自分の結婚に対するイメージの向上	里親型 GH	1	9.1
	地域小規模 GH	20	22.0
	その他の GH	3	4.3
自分の結婚に対するイメージの低下	里親型 GH	0	0.0
	地域小規模 GH	0	0.0
	その他の GH	0	0.0
金銭感覚の体得	里親型 GH	3	27.3
	地域小規模 GH	41	45.1
	その他の GH	14	20.0
生活リズムの安定	里親型 GH	3	27.3
	地域小規模 GH	75	82.4
	その他の GH	29	41.4
とくにない/まだ入所したばかり	里親型 GH	1	9.1
	地域小規模 GH	1	1.1
	その他の GH	4	5.7
わからない/施設での情報が少ない	里親型 GH	3	27.3
	地域小規模 GH	0	0.0
	その他の GH	1	1.4
その他	里親型 GH	0	0.0
	地域小規模 GH	6	6.6
	その他の GH	0	0.0

* 里親型 GH については、児童養護施設を意味する ※ 里親型 N=11、地域小規模 GH: N=91、その他の GH N=70